

石塚 裕子

大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 博士後期課程

高齢者等の移動制約者を対象とした「まち歩き型」観光の効果分析と観光地整備の方法  
—視覚障がい者の観光まち歩きの効果分析を通じて—

本研究は、近年、研究が盛んになっている観光バリアフリー研究のレビューを行い、研究対象の分類ならびに課題について分析を行った。特に研究が不足している視覚障がい者を対象に、移動制約を感じることを理由となってニーズが潜在化している「まち歩き型」観光の支援方法について考察を行った。

本研究では、視覚障がい者の移動能力の発達に影響を与えている要因に着目し、移動経験に関するライフヒストリー調査から「まち歩き型」観光の支援では、『周囲の人々を利用して自身の能力で行動できる経験』の重要性を明らかにした。そして、「まち歩き型」観光の一つである観光ガイドを伴った散策について、「触る」という要素を取り入れた場合の効果について実証研究を行い、POMS 短縮版質問紙を用いて、その効果を計測した。その結果、まち歩きは気分を改善する効果が高く、「触る」要素を取り入れることで、さらに効果が高まることが明らかになった。また、「触る」まち歩きを行うことで、当該地区に対する評価、まち歩きに対する満足度も向上した。さらに、「触る」まち歩きを経験することにより、まち歩きに対する自己効力感を高める可能性が確認でき、これらの結果から、自身の五感を用いて能動的に体験することの有用性と必要性を明らかにすることができた。